



100% 手作りのお世話®

成婚率の高さが決め手!!  
コンピューターを使わず、すべて手づくり100%の誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、お人柄等バランスのとれたご提案により、無駄のないご紹介を実施しています。ご成婚重視と、プライバシー厳守のため、自社会員のみのご紹介をいたしております。

結婚物語 前略…

前略 この度は息が大変お世話になりました。お蔭様でやっと家庭を持つことができ、遅ればせながら息子も一人前になった気がします。と同時に私の子育ても愈々終わりと思うと、一抹の淋しさも否めません。本当はもっと早く親… → 続きはWebで [Em Road 結婚](#)

Marriage Road 結婚

Em Roadはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 自社会員のみ構成
- 4 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 5 格式あるお見合いパーティー



資料請求・お申し込み・お問い合わせ

(株)エムロード

0120-4122-46

(10:00~18:00 / 水曜定休)

大阪本社 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満 3-2-2 エムロードビル 3F

資料請求

- エグゼクティブコース
- ドクターズコース
- スタンダードコース
- シニアズコース

Em Road 結婚

検索

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第55巻第2号

発行所 〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636

発行者 発行部数 安藤嗣彦 6,250部

URL http://www.jinsenkai.net

おさんぽ日和



大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

# 大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

## Super Smart Hospital

### スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



2027年全容完成予定

2025年B棟完成

2022年A棟完成



Since 1927

1960年病院1号館完成



#### 募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実  
募金目標▶10億円  
募集期間▶~2027年3月  
募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円  
顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。  
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



## 大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

#### 募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円  
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。  
【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7  
OMPU Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html

至誠仁術を備える人材の育成をめざして  
ご支援のお願い

# 目次

#### 学会報告

P4 第48回日本足の外科学会学術集会を開催して 安田稔人 (学37期)

#### 支部だより

P6 京都仁泉会 秋の講演会 森本博子 (学24期)  
P10 令和5年度仁泉会大阪府支部連合会  
秋季学術講演会（仁泉会IN近畿）開催報告 村木宏要 (学27期)  
P12 東大阪支部新年総会報告 大西洋一郎 (学25期)  
P14 仁泉会東住吉平野支部総会及び懇親会報告 長谷川利雄 (学32期)  
P16 令和6年度仁泉会神戸支部新年会報告 藤田能久 (学47期)

#### クラス会だより

P18 大阪医科薬科大学第十二期卒業生 三八会報告 太田 稔 (学12期)

#### 仁泉ひろば

P20 情けは人の為ならず 佐々木進次郎 (学8期)  
P22 でんでらりゅうば 岡野 准 (学21期)  
P23 冊子切抜 井尻慎一郎先生 (学31期)  
P24 冊子切抜 田村 功先生 (学31期)  
P25 まんが第66回 京都ぼん太町 (学31期)  
P26 開業しました！ 前田和也先生 (学57期)  
西原賢太郎先生 (学47期)  
秦 健一郎先生 (学52期)  
野原悠貴先生 (学60期)

#### 本部だより

P29 会員計報  
P31 2024年度版会員名簿作成について  
編集後記



2024年1月1日に石川県能登半島を震源に発生した地震において、亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。被災された地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

大阪医科薬科大学仁泉会 役員一同

# 学会報告 ● ● ●

## 第48回日本足の外科学会学術集会を開催して

文責／大阪医科薬科大学看護学部教授  
安田稔人（学37期）

この度、第48回日本足の外科学会学術集会を2023年10月26日（木）、27日（金）の2日間、大阪市のグランフロント大阪北館のコングレコンベンションセンターにおいて開催しました。開催にあたっての大阪医科薬科大学仁泉会からのご支援に厚く御礼申し上げます。日本足の外科学会は1976年に設立されて以来、45年以上の歴史を持ち、現在、会員数も1800名を超えるまでに成長しております。一方、大阪医科薬科大学整形外科学教室は2022年に開講70周年を迎えましたが、足の外科班は1989年に開設されました。それから30年以上に及ぶ当教室足の外科の歴史において、木下光雄先生（第23回会長、1998年）、奥田龍三先生（第36回会長、2011年）に続き、日本足の外科学会学術集会を主催できたことを大変嬉しく思っております。

本学術集会はテーマを「これからの足の診療ーチームの力、個の力ー」と、いたしました（図1）。これから



図1. 学術集会ポスター

の足の診療においては、足の外科医一人一人の知識や技能、研究力の向上は大変重要ですが、同時にチームとしての力を向上させることも欠かせないとの思いを込めました。現在、私は看護学部所属し、本学が力を注いでいる多職種連携教育に関わっており、多職種が連携するチーム医療の大切さを学生とともに日々学んでいます。学術集会テーマに沿って、できるだけ日本足の外科学会の会員以外の皆様にもご参加いただきたいと思い、今回の学術集会では4つの学会と合同シンポジウムを企画しました。日本フットケア・足病医学会とは合同シンポジウムだけでなく、日本フットケア・足病医学会理事長の神戸大学の寺師浩人教授に「日本フットケア・足病医学会のこれから」と題してご講演をいただきました。また、日本靴医学会、日本リウマチ学会ともそれぞれの理事長にご賛同いただき、合同シンポジウムを行いました。さらに韓国足の外科学会からも多くのゲストを迎え、日韓の合同シンポジウムを行うことができました。2つの合同シンポジウム「Achilles tendon disorders in athletes」、「Treatment strategy for severe hallux valgus」において、スポーツ選手のアキレス腱断裂やアキレス腱症、さらには再発の多い重度外反母趾の治療について日韓での活発な議論が行われました。本シンポジウムが日本足の外科学会と韓国足の外科学会の交流の場となり、両学会が今後もさらに力を合わせて発展していくことを願っています。また招待講演として韓国から Woo-Chun Lee 先生に変形性足関節症の関節温存手術について、さらにパリオペラ座のスポーツ医である Xavière Barreau 先生にバレエダンサーの足部傷害に対するチーム診療の実際をお話いただきました。また、特別企画として、大阪医科薬科大学名誉教授の木下光雄先生と日本足の外科学会理事長の仁木久照先生に「成人の扁平足について語り合う」というタイトルで1時間の対談を行っていただきました。扁平足の患者さんの多くの診察動画だけでなく、実際に壇上で、お二人の先生に模擬患者さんの診察をしていただくなどの工夫も加えて、対談形式でわかりやすく扁平足の診断と治療を解説していただきました（図2）。

会場はJR大阪駅と直結しており、天候に恵まれたこともあり、本学術集会には910名を超える皆様にご参加いただきました。多くの指定演題の他に公募演題として合計402演題を採用いたしました（優秀演題候補18題、主題51題、一般演題220題、ポスター113題）。第1会場から第6会場までワンフロアであったこともあり、学会場はとても賑やかな雰囲気となりました。多くの

職種の皆様にご参加いただき、職種の垣根を超えた大変実りのある討論ができたのではないかと考えております。また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが令和5年5月8日から5類感染症になり、アフターコロナの時代に変遷しており、4年ぶりに制限のない完全対面での学術集会を開催できたことを大変嬉しく思っております。学会前日の晩餐会では、約200名の皆様をお迎えし、食事やお酒と共に、バレエダンサーをお招きし、『ドン・キホーテ』第3幕よりキトリとバジルの「グラン・パド・ドゥ」を鑑賞いただきました。また学会初日の夜には全員懇親会を開催し、多くの先生方と親交を深めることができました。学会長としての学術集会の準備は非常に大変でしたが、学会が始まってみると2日間は大変短く、また楽しく感じ、学会2日目の午後には、もう学会が終わってしまうのだなという、少し寂しい気持ちが込み上げてきたことをよく覚えております。最後に記念写真を撮影して終了となりましたが（図3）、学術集会の開催を経験できたことは、私自身にとりまして大きな財産となっていると思います。

最後になりましたが、今回の学術集会の後援である大阪医科薬科大学仁泉会の皆様のご協力、ご支援にこの紙面を借りまして、心より御礼申し上げます。3年前に学術集会の担当が決まってから、本当に多くの皆様のお世話になりました。主催事務局の大阪医科薬科大学整形

外科学教室の皆様をはじめ、大阪医科薬科大学足の外科グループの先生、学術集会の企画、運営に直接参画いただいた株式会社コングレの担当の皆様、本当にありがとうございました。また、協賛いただきました多くの企業の皆様、ご支援、ご協力を頂きました関連病院、同門の皆様にも深く感謝申し上げます。一人でも多くの患者さんが痛みなどの足の悩みから解放されるために、本学術集会が、その一助になれば幸いです。大阪医科薬科大学仁泉会の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。



図2. 特別企画対談いただいた木下光雄先生（大阪医科薬科大学名誉教授）、仁木久照先生（日本足の外科学会理事長）に感謝状をお渡ししました



図3. 学会終了後の全員写真

# 支部だより ●●●●

## 京都仁泉会 秋の講演会

文責／森本博子（学24期）

京都仁泉会は年に2回講演会（一回は総会終了後）を開催するのが恒例になっておりますが、最近の情勢でメーカーの協力を得るのが困難になってきております。令和5年秋の講演会について自主開催を検討しましたが、なかなか難しく半ばあきらめていましたが、一社がサポートを申し出てくださいようやく開催の運びとなりました。

11月18日ホテルオークラ京都で対面での開催となりました。久しぶりの講演会ということもあり、26名の参加者がありました。岡本文雄先生の司会で、まず河野龍而会長の挨拶があり、講師の大阪医科薬科大学 医学部 麻酔科学教室 南敏明先生を紹介されました。

演題は「最新の痛みの診断と治療」で講演していただきました。

## 2016年3月開院 中央手術棟



本題に入る前に、南先生は大阪医科大学創立100周年を控え、構内の新病棟建築に最初から参画されておりました。2012年7月に中央手術棟建築計画委員会委員長（設計責任者）に就任、2016年3月に中央手術棟の開院、昨年は大阪医科薬科大学病院A棟が完成し、大阪府三島救命救急センターの三次救急機能が移設されています。建物、内部の機器は最先端なのはもちろんですが、運営面でも素晴らしい成果をあげています。帝王切開の要請があつてから胎児娩出までの時間がなんと平均20分という速さで麻酔・手術をされるという実績をあげられています。

現在大阪医科薬科大学病院B棟が建築中で病院全体が完成するのは2027年だそうです。工事の進捗状況は遅れなく順調に進んでいるというお話でした。南先生のご尽力は並々ならぬものと思われました。そして母校の素晴らしい変貌ぶりに感銘をうけました。本題に入り、疼痛の分類等詳しくお話しいただきました。南先生ご自身が帯状疱疹に罹患され、三叉神経痛の痛みを身をもって体験され、その経過をご自身の写真を提示され、身体他の部位に出現する発疹とは違い、顔面にでる帯状疱疹の痛みの強さを語られました。お話を伺ってワク

チン接種の必要性を感じました。身近の痛みがテーマだったので、質問も多く出、それぞれに丁寧にご回答くださいました。講演の後は、松花堂弁当をいただきながら談笑し、次回は5月の総会への参加を呼びかけ、お開きとなりました。

以下は講演の要旨です。

## 2022年7月開院 新本館A棟



新本館A棟12階  
がん医療総合センター  
からの眺め

## 大阪医科薬科大学病院救命救急センター開設



### 演題：最新の痛みの診断と治療

大阪医科薬科大学病院  
大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室  
南 敏明



痛みは、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、痛覚変調性疼痛に大きく分類されます。侵害受容性疼痛は、「神経組織以外の組織に対する実際の損傷、または損傷の危険性がある時に生じる痛みで、侵害受容器が活性化されることによって生じる痛み」と定義され、病気や怪我に対する有用な警告反応で、非ステロイド性消炎鎮痛薬（NSAID）、アセトアミノフェンやオピオイドでコントロール可能です。しかし、神経障害性疼痛は、「体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛」と定義され、一度、病態が完成すると非常に難治

性で、痛み自体が有害な病態をもたらします。そのため、早期に診断を行いガバペンチノイドや抗うつ剤の投薬が必要であります。痛覚変調性疼痛に至っては、「侵害受容の変化によって生じる痛みであり、末梢の侵害受容器の活性化をひきおこす組織損傷またはそのおそれがある明白な証拠、あるいは、痛みをひきおこす体性感覚系の疾患や傷害の証拠がないにもかかわらず生じる痛み」と定義されています。要するに炎症や神経損傷がないのに痛い病態です。それでは、どの様に治療すれば良いのか？オピオイドは、侵害受容性疼痛で用いられています。神経障害性疼痛では、第3選択薬となっています。しかし、痛覚変調性疼痛では、オピオイドの使用は回避した方が良くはなっています。

各々の痛みの診断と治療、注意すべき点などを事例を含めて講演をさせていただきました。特に、コロナ後に帯状疱疹神経炎の罹患が増加しています。早期治療と共にワクチン接種の予防も大切であります。

こどもの痛みは大人の慢性痛に移行しやすいため、子供の痛み治療が大人の慢性痛予防になることを強調させていただきました。

痛みのコントロールに難渋している症例があれば、是非に大阪医科薬科大学病院麻酔科・ペインクリニック外来にご紹介をお願い申し上げます。

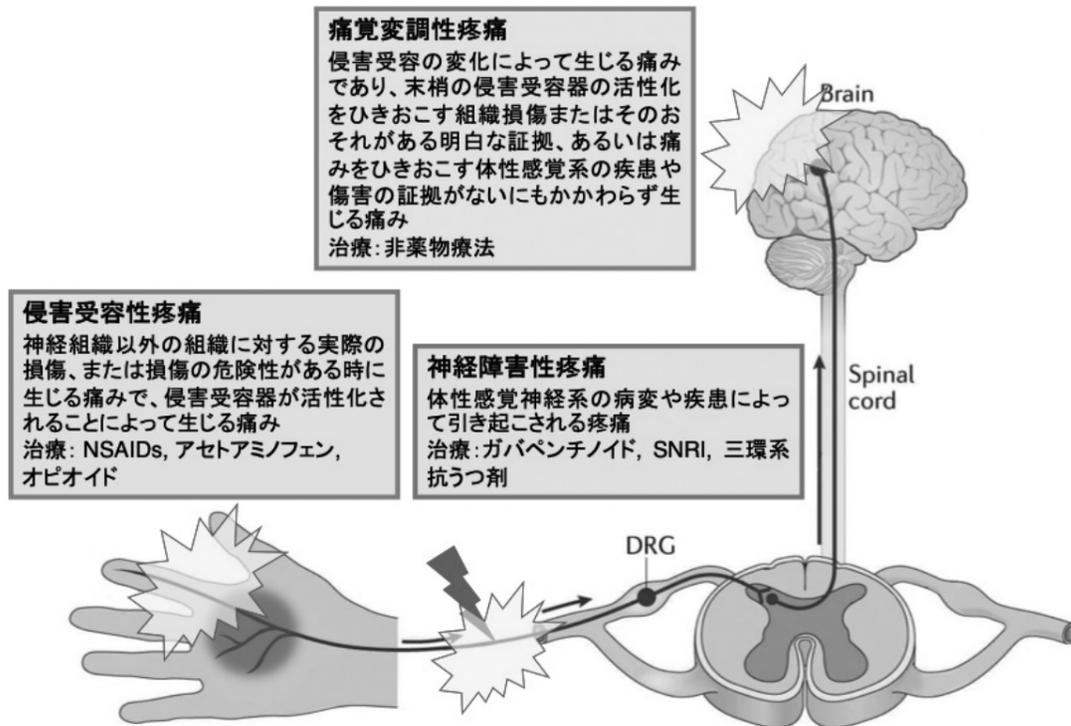


図. 痛みの分類とその治療  
International Association for Study of Pain, Pain terminology 2021.  
日本痛み関連学会連合用語委員会 2021. を基に作図

絵: 谷村絵理



### 2027年 大阪医科薬科大学



# 支部だより

## 令和5年度仁泉会大阪府支部連合会 秋季学術講演会（仁泉会 IN 近畿） 開催報告

文責／村木宏要（学27期）

令和5年11月11日(土)ホテルグランヴィア大阪20階「鳳凰の間」にて仁泉会IN近畿と題した令和5年度の仁泉会大阪府支部連合会秋季学術講演会が開催されました。昨年は ZOOM を併用したハイブリッド開催で、理事会では今年も ZOOM 併用のハイブリッド形式での参加の方がご都合がつきやすいのではないかと意見もありましたが、4年ぶりの懇親会も開催することもあり完全対面形式での開催となりました。心配していた参加者も昨年と同様の71名の先生にご参加いただきました。(昨年は現地参加41名、オンライン参加33名)。



大西洋一郎先生

会に先立ち興和株式会社からの情報提供が行われました。その後、副会長の御前治先生(学33期)の司会で会が始まりました。



安藤嗣彦理事長

最初に、ご親族の結婚式で欠席された会長の霜野良一先生(学28期)に代わり副会長の大西洋一郎先生(学25期)が挨拶されました。続いて、来賓の大阪医科薬科大学仁泉会理事長の安藤嗣彦先生(学20期)が挨拶されました。母校の新病院建設をはじめ BNCT 施設の稼働状況などが好調であることは同窓会としても、とても誇りに思っているということ、また他大学でも活躍の先生が増えていることもとても嬉しく思っていると述べられました。続いて、大阪医科薬科大学学長の佐野浩一先生(学29



佐野浩一学長

期)のご挨拶がありました。学生時代に母校50周年記念事業が開催された折、大阪府連の先生方に相談をした思い出や母校の近況をご報告いただきました。

講演会は、理事の森川浩志先生(学36期)が座長となり、今回、日本医師会副会長の茂松茂人先生(学27期)を講師にお招きし、ご講演を賜りました。最近の中央情勢・診療報酬改定から医療用医薬品不足の現状と問題点等とお話は多岐に渡り、ご講演後の質疑応答も時間をオーバーする程多数あり、盛会のうちに終了いたしました。

以下、講演内容の抄録をスペースの許す限り紹介いたします。

### 【演題】

最近の中央情勢とかかりつけ医の糖尿病薬の処方状況  
～診療報酬改定の行くえ～

### 【抄録】

#### 1・最近の中央情勢・診療報酬改定に向けて

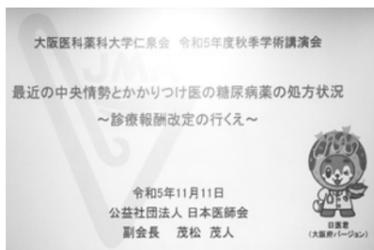
9月に医療費の動向が公表され、コロナ対応により医療費(収入)が増収した。これは医療界が一致団結してコロナにしっかり対応して向き合った証である。にもかかわらず2020、2021年度のコロナ禍による医療費減(3.2兆円)のダメージが残っている。一方で、財務省財政審等においてはコロナ補助金等による内部留保の積み上がりを賃上げとして活用すべきと発言をしている。さらに恣意的な資料を用いて診療所の経常利益率が2020年、21年、22年と3.0、7.4、8.8%の上昇を指摘、利益剰余金も1900万円上昇し、これにより職員の賃上げは可能と提案してきた。日本医師会としてはTKK医業経営指標を用いてコロナ特例影響がなければ利益率は悪化していると対峙した。さらに協会けんぽの保険料が医療介護給費についていけず保険料率が10.8%に上昇すると国民に不安を与えていることを指摘し対応したことを述べる。

財務省財政審は診療報酬本体はマイナス改定と発言をするも、日本医師会は物価高騰・賃金上昇についていけず、人材が他産業に流出するとして対峙している。

秋の新たな経済対策で、入院中の食事療養等への新たな対応や、光熱費等の物価高騰への継続支援がとりま



茂松茂人先生



とめられ、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」が閣議決定された。これから、令和6年度診療報酬・介護報酬等トリプル改定の議論がさらに本格化するなかで、日本医師会は、引き続き政府に対し、物価高騰・賃金上昇に対する取り組みを進め、プラス改定が実現するよう、求めていく。

また、マイナ保険証の利用促進やリフィル処方箋にも触れた。

診療報酬改定では高齢者救急の医療資源投入量により議論されていることや急性期一般入院料1における平均在院日数、急性期充実体制加算、総合入院体制加算、地域包括ケア病棟、療養病棟、回復期リハの問題点について述べた。

新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の分類が5類に移行したが、新型コロナウイルスの性状は変わらない。また、診療報酬上の特例の見直しが行われた。

日本医師会は、感染拡大に備えて、より幅広い医療機関でコロナ患者が受診できる医療提供体制の構築に向けた地域の医療機関の取りまとめと、都道府県移行計画に関する協議や実践への関与等の要請を行うなど、地域医療の継続に尽力している。

#### 2・地域におけるかかりつけ医機能

地域に根差して診療している医師は、地域住民の健康を守るために連携して活動を行い、それぞれの地域を面として支えている。そして、地域医師会はその活動に深く関与して運営している。そのうえで、日本医師会は、「国民の生命と健康を守る」という使命を果たすため、国民目線で国民のために日々活動を行っている。

かかりつけ医機能に関する議論は、令和5年に全世代社会保障法が成立し、かかりつけ医機能が発揮される第一歩が踏み出された。

現在、令和7年4月の施行に向けて省令等の議論が行われ、そこには日本医師会の役員も参画している。

「かかりつけ医機能が発揮される制度整備」は、医



療機関が自主的に医療機能を報告し、国民が適切な医療機関を自ら選択できるよう分かりやすく示すとともに、それを基に必要に応じて地域で協議していくことが重要である。

次の一步に向けて、日本医師会は、医療現場の意見を踏まえ、国民がより適切に受診できるよう、医療提供体制を構築していく。

#### 3・医薬品の安定供給

医療用医薬品不足の現状と問題点について、日本医師会では緊急アンケート集計の結果に触れ、医療現場に企業の出荷状況以上に不足を呈していることに触れる。産業構造上の課題、バイイングパワー、外的・内的要因から供給問題に触れた。

#### 4・日本医師会 J-DOME 研究事業

一方、診療所を中心に糖尿病や高血圧症の症例データを収集し、診療の向上を目指すため、日本医師会 J-DOME (ジェードーム) 研究事業を行っている。2型糖尿病・高血圧症を中心とする症例データを収集し、分析、情報提供を行うことで、最適な医療提供、さらには国民の健康寿命の延伸につなげていく。今回は専門医においてSGLT2、GLP1の処方一般医に増加していることが明らかになったことを指摘した。

#### 5・医師会の組織力強化

日本医師会は、引き続き地域医師会や病院団体等の関係団体との連携に努め、地域から中央へボトムアップ方式で様々な意見をくみ上げ、さらにはそれに基づき、厚生労働省をはじめとする行政と対話を重ね、政府与党と丁寧なコミュニケーションを図り、医療界の考えを医療政策に反映するよう政策提言を行ってまいりたい。

結びに医師会の組織強化についてその重要性に触れ、協力をお願いした。

ご講演の後、興和株式会社の謝辞、理事の上野豊先生(学27期)の閉会の辞にて講演会は終了し、隣室での情報交換会にうつりました。情報交換会では久しぶりの対面での会話に話題がつかまることはなく、盛会裏のうちにお開きとなりました。

令和6年度の学術講演会は11月9日(土)ホテルグランヴィア大阪にて開催を予定しておりますので、今から予定にお加えいただき、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

# 支部だより ●●●●

## 東大阪支部新年総会報告

文責／東大阪支部長 大西洋一郎（学25期）

1月14日に安藤理事長を迎えて、リッツカールトン大阪で東大阪支部仁泉会総会が開かれました。理事長による元旦の登と大地震の犠牲者に黙とうが行われました。ご冥福をお祈りいたします。

今年は会計改革を行い、次年度以降はこれに則る形で行うつもりです。

珠洲市の一家帰郷時に42才父親のみ生存された御一家がおられましたが、関東大震災時のシャープ創業

者一家も全く同じ状態で、でも世界企業にまで育てあげられました。お父様のことを思うと。

・・・話題は多岐にわたり、阪神大震災時に70名にも及ぶ死亡診断書を書いた話、DMATに継続的に参加している話、ニデックの話、ナンバ歩きの話、最後には恒川先生（学17期）が去年を限りに耳鼻咽喉科診療所をしめられた話をして、楽しく会を閉じました。

本年も援助金3万円をいただきありがとうございました。来年は1月12日（日曜日）の予定ですのでぜひ御出席ください。

なお出席者は、安藤嗣彦先生（学20期）、佐藤公彦先生（学12期）、恒川恵治先生（学17期）、塩路清一先生（学20期）、大西洋一郎（学25期）、三宅裕治先生（学28期）、三宅直子先生（学28期）、龍野光蔵先生（学30期）、大西敦子先生（学40期）の先生方でした。



## 令和6年度大阪府支部連合会支部長会 開催のお知らせ

令和6年度の大阪府連支部長会は下記にて開催いたします。  
詳細の御案内は郵送にてお送りさせていただきます。

記

日 時：令和6年5月11日（土）支部長会 午後4時30分から  
場 所：ホテルグランヴィア大阪

以上

# 支部だより ●●●

## 仁泉会東住吉平野支部総会及び懇親会報告

文責／東住吉平野支部長 長谷川利雄（学32期）

令和6年2月17日（土）に大阪マリオット都ホテル20階にて仁泉会東住吉平野支部総会及び懇親会を開催した。26年ぶりの開催なので、名簿の管理や通帳の確認等の苦勞も少なくなかったが、先輩諸氏によって築き上げていただいた古い伝統も過去の記録に散見され、支部の活動資金もきちんと管理されていたので、仁泉会東住吉平野支部会員11名及び仁泉会会員で支部会員でない者17名に郵送連絡した結果、4名の新規会員の入会があり、今回の総会・懇親会の開催に至った。

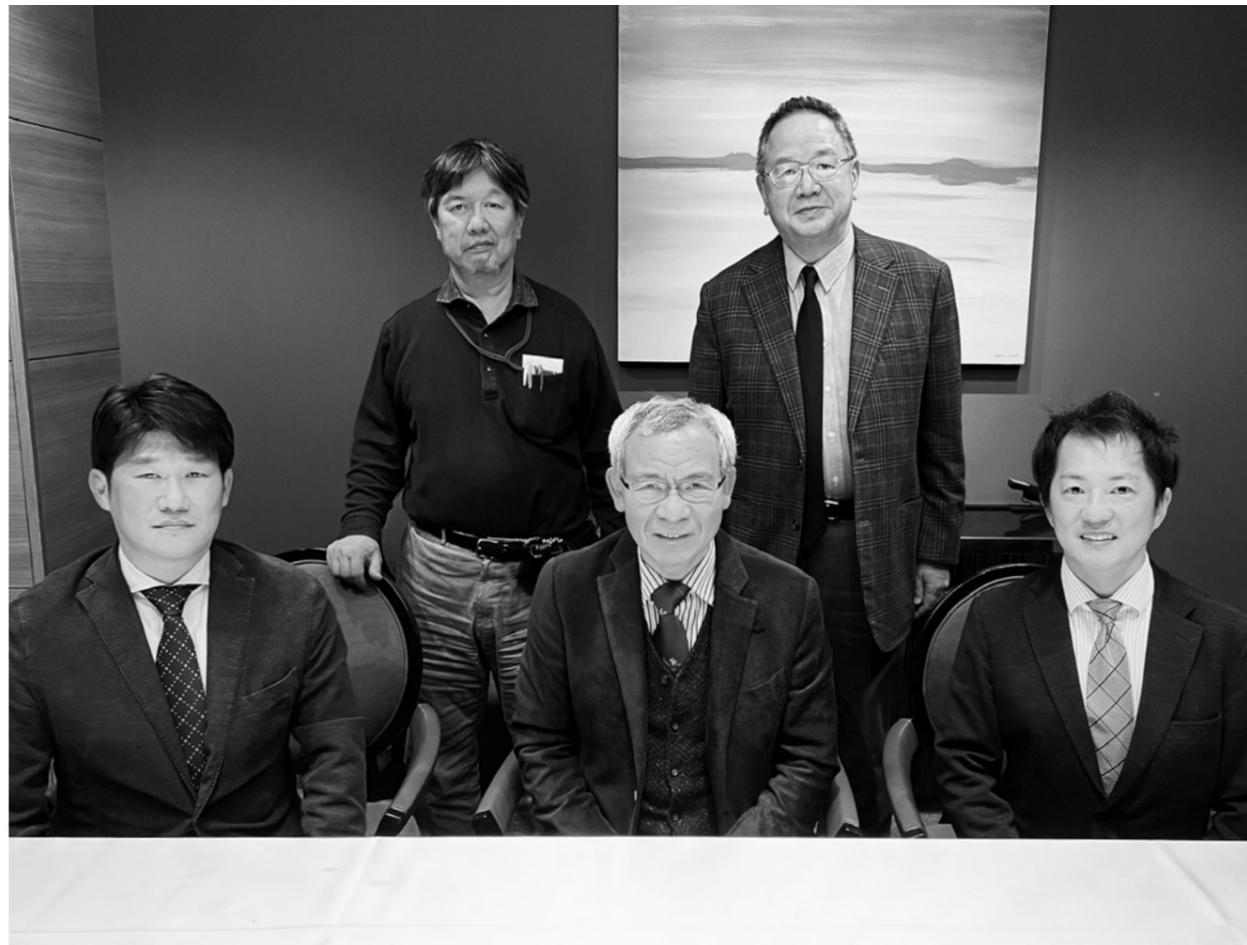
参加者は田口忠宏（28）、長谷川利雄（32）、寺山幸嗣（34）、向坂直哉（49）、天野大（50）、の5名（敬称略）。

審議事項：会員名簿の確認、会計報告、入会基準の確認等。報告事項：平野区および東住吉区の近況について、診療報酬の改定について等。

その後懇親会を開催した。参加者は少数ながら、料理は食材を厳選した和洋折衷のコースで美味。シャンパン→白ワイン→赤ワインとアルコールが進みに従い、色々な話題が花開いた。母校卒業後はそれぞれの進路は異なり、初対面の参加者もあったが、世代こそ違えても大阪医大で学んだということを通点として話題は尽きなかった。今後も引き続き支部への入会を勧誘し、このような会を継続することを確認して散会した。

母校を離れた地域にこのような世代を超えた会合があるのはとても有益なことだと再認識した。仁泉会会員で東住吉平野支部に未入会の方は入会が必要ですので私まで連絡して下さい。

仁泉会東住吉平野支部  
 連絡先：長谷川整形外科医院 長谷川利雄  
 FAX：06-6700-3120 TEL：06-6701-5815  
 メール：thsgw@pj8.so-net.ne.jp



# 令和6年度定期評議員会・総会開催のお知らせ

令和6年度の定期評議員会・総会は下記にて開催を予定しております。先生方におかれましては、今から予定にお加えいただければ幸いです。多数のご参加をお待ちしております。

記

日時：令和6年5月26日（日）午後2時30分から評議員会  
 午後3時から総会  
 総会終了後 懇親会

場所：ホテルグランヴィア京都

以上

## 編集部より

### 会費納入のお願い

年会費  
 令和5年度 10,000円  
 令和4年度 10,000円  
 令和3年度 10,000円  
 納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

### 原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●55巻3号（令和6年5月1日発行）

締切 令和6年3月末日

●55巻4号（令和6年7月1日発行）

締切 令和6年5月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail：jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

## 支部会クラス会等のご案内募集

支部会、クラス会等の開催告知を仁泉会ニュースに掲載させていただきます。

お気軽に事務局までお送り下さい。

※発刊予定は上記の「編集部より」をご確認いただき、なるべく早くお知らせいただけますと幸いです。

# 支部だより

## 令和6年度 仁泉会神戸支部 新年会報告

文責／藤田能久 (学47期)

令和6年1月20日(土)、仁泉会神戸支部 新年会が開催されましたので、ご報告いたします。

4年ぶりとなった新年会でしたが、副会長 井尻慎一郎先生(学31期)のご紹介にて由緒正しき『神戸倶楽部(The Kobe Club)』を会場として、総勢35名の先生方が出席されました。

特別企画として中井宏次先生(NPO法人健康笑い塾、1975年大阪薬科大学卒)をお招きして『健康と笑い』に関してのご講演を頂きました。初めは緊張気味に見守っていた会員の先生方も随所にユーモアを交えたトークに引き込まれ最後には会場が和やかな雰囲気となり新年会のスタートにふさわしい講演となりました。



中井先生を交えて集合写真を撮影後、会長 増井裕嗣先生(学29期)からご挨拶がありました。初めに、この度の能登半島地震にて被災された方々へのお見舞いの言葉を申し上げられた後、仁泉会各支部の先生方の被災状況や支援活動の状況など、報告を交えた



ご挨拶となりました。

次に仁泉会本部の報告も兼ねて、理事長 安藤嗣彦先生(学20期)よりご挨拶を頂戴した後、出席者一同での乾杯となりました。乾杯の後は、コロナ禍からの解放を実感するマスク・パーティーを設けず、念願の会食となりました。歴史と伝統のある外国人クラブならではの正統派フランス料理を楽しみながら、ワイングラスを手に、各テーブル歓談の花をさかせていました。

宴も中盤に差し掛かり、酔いもまわってきたところで、恒例のスピーチ大会となりました。

神戸市医師会会長 堀本仁士先生(学35期)も大変ご多忙中、ご出席いただき、神戸市医師会の現状報告を兼ねてご挨拶を頂きました。特筆すべきは、松本逸平先生(学42期)のご尽力により足立和正先生(学42期)、長濱通子先生(学42期)、三崎博先生(学42期)と新規にご参加頂け、テーブルではH5年卒ミニ同窓会の様相を呈していました。途中、そろってのご登壇もあり、神戸支部 学42期(H5年卒)新時代到来?を予感させる新年会にふさわしい会となりました。

中本博士先生(学39期)からゴルフコンペ(R6年6月予定)のご案内後、恒例の学歌斉唱を行いました。法人合併後、薬学部、看護学部など総勢700名超の合同入学式ではすでに学歌斉唱はされていないと伺いましたが、神戸支部総会・新年会では学歌を継承していければと思います。

最後に副会長 中林まゆみ先生(学29期)より閉会のご挨拶があり、無事、新年会も閉会となりました。最後は三宮のいつもの場所に繰り出し、大盛況のうちに神戸支部でのルーチン2次会が終了しました。



追伸

R6年度 神戸支部総会のご案内です。

令和6年7月13日(土) ホテル北野プラザ六甲荘にて開催となります。

会員の先生方、新規参加を迷っておられる先生方、親子参加など、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお、案内ハガキ新規郵送などに関しては、本部事務局(TEL 072-682-6166)までご一報願います。



参加者：(敬称略)

- |             |              |              |              |
|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 福永 晶 (学14期) | 森本義康 (学24期)  | 高井 豊 (学30期)  | 長濱通子 (学42期)  |
| 谷尻 仁 (学15期) | 高矢康幸 (学26期)  | 米田 豊 (学30期)  | 松本逸平 (学42期)  |
| 日下孝明 (学16期) | 植坂俊郎 (学27期)  | 井尻慎一郎 (学31期) | 三崎 博 (学42期)  |
| 北村純司 (学19期) | 辻本 豪 (学27期)  | 田村 功 (学31期)  | 藤田能久 (学47期)  |
| 横山光昭 (学19期) | 中林愛晶 (学27期)  | 越智 豊 (学32期)  | 浪方 悠 (学65期)  |
| 安藤嗣彦 (学20期) | 中林まゆみ (学29期) | 水谷 肇 (学32期)  | 中井宏次 (S50年卒) |
| 岩越一彦 (学22期) | 浪方典宏 (学29期)  | 堀本仁士 (学35期)  | 天野公博 (本部事務局) |
| 石原一秀 (学23期) | 増井裕嗣 (学29期)  | 中本博士 (学39期)  |              |
| 寺師克洋 (学23期) | 森松伸一 (学29期)  | 足立和正 (学42期)  |              |

# クラス会だより

## 大阪医科薬科大学第十二期卒業生 三八会報告

文責／太田 稔（学12期）

2019年4月に淡路島での第32回同窓会開催以来、コロナウイルスの波及により多数の宴会や種々の会合等中止されていましたが、昨年からやっとコロナ感染症の減少傾向が見られるようになり、我々三八会も2023年1月4日京都の嵐山吉兆で開催することが出来ました。

11月の連休の中日で、秋の嵐山を訪れた外国人の観光客も多く、渡月橋近辺の混雑の中を吉兆にたどり着くのは大変でした。

今回は33回目の会合で、総勢19名(内、御夫人5名)が参加されました。

今回、広島から大崎先生御夫妻、兵庫方面から奥先生御夫婦、平野先生御夫婦、西村先生が出席され、京都から古谷先生、松原先生、太田、当番幹事の秋岡先生、植木先生御夫妻、内田先生御夫妻、丸山先生御夫妻、神戸から久しぶりに吉田泰子先生が参加されました。

当番幹事の内田先生の進行で代表幹事の秋岡先生の挨拶に始まり、令和元年以降に亡くなられた大西正則先生、加藤一博先生、広石 隆先生、柳澤 稔先生方

に対して黙祷が行われ、続いて大学理事長の植木先生から最近の大学のニュースを伺いました。

大阪薬科大学との合同大学として大阪医科薬科大学の実現と以前から進行中であった病棟の旧建築の解体、新築の同時進行が来年度に完成の目途が付き、2025年7月に完成予定の研究棟（法医解剖、研究施設基礎実験施設）など新たな研究棟と動物舎の建築を残すのみと説明され、2018年3月に竣工した関西BNCT共同医療センター、PETセンターでの治療件数は212件に及び、今年3月には大阪医科薬科大学、大学院、医科、薬科、看護科から多くの医療人の誕生を見るに至ったと報告されました。

これまで長きに亘ってお世話下さいました丸山優子先生より、今回をもって三八会を打ち止めにしたいとの提案があり承認されました。

集合写真撮影後、内田先生のお世話で嵐山吉兆の懐石料理を堪能し、舞妓さん達の舞が披露され21時に閉会、遠方の先生方は京都ホテルオークラで宿泊、二次会となり機会があれば有志の方々で集まる事を約束して閉会となりました。

丸山先生、長い間の幹事御苦勞様でした。

参加者(アイウエオ順・敬称略)：

秋岡 壽、植木 實夫妻、内田 實夫妻、大崎 洲夫妻、太田 稔、奥 日出一夫妻、西村道也、平野勝彦夫妻、古谷幸雄、松原 健、丸山俊郎、丸山優子、山本哲也、吉田泰子

2023.11.4 大阪医科薬科大学 三八会 於：嵐山吉兆



後列左より 大崎夫人、平野夫人、植木夫人、平野勝彦、奥日出一、大崎洲、山本哲也、太田稔、松原健、秋岡壽、森上(三八会世話人)、内田夫人、奥夫人  
前列左より 古谷幸雄、丸山優子、吉田泰子、植木實、丸山俊郎、西村道也、内田實

## 支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636  
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

## 受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636  
e-mail / jimuj@jinsenkai.net



地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの  
**医療印刷**

**タツミ印刷株式会社**

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻  
tel: 072-761-8434

ハードルをジャンプ!!

## 仁泉ひろば

jinsen-park

## 情けは人の為ならず

文責／佐々木進次郎（学8期）

表題の諺の本来の意味は「人に情けをかけておけば、巡り巡って結局は自分のためになる」であるが、これを「人に情けをかけるのはよくない、かえってその人のためにならない」と解釈する向きがあるようだ。平成22年度の文化庁『国語に関する世論調査』によると、前者が正しいとした人が45.8%、後者が正しいと答えた人が45.7%と、ほぼ同率であった。

この誤解釈は「ならず」を動詞「なる」の否定と考え、「人のためにならない」の意味に捉えたことによるであろう。古語の「ならず」は「である」を意味する断定の助動詞「なり」の否定であり、「ではない」という意味である。つまり「人のためならず」は「人のためではない=自分のためである」ということになる。上記世論調査では、60歳以上の人で正解率が高かったそうだが、これはおそらく高齢者のほうが古語と関わる機会が多かったからであろう。

この諺の由来は不明であるが、出典（使用例）としては『貞享版沙石集』（1283年）、『太平記』（14世紀）などがある。因みに、『太平記』にある例は以下のエピソードに由来している。四条畷戦において、高師直の陣中に上山六左衛門という家来が訪ねていたところ、楠正行軍の攻撃が始まった。上山は鎧も持たずに訪れていたため、師直の鎧を拝借しようとしたところ、これをとがめた師直の配下と争いになった。そこへ師直が通りかかり、「今、師直に代わって働いてくれようとする者に、何を鎧の一領如きを惜しもうぞ」といい、上山に鎧を与えた。後に楠軍の総攻撃に遭って師直は窮地に立たされたが、そこへ上山が現れ、師直の身代わりになって討ち死にしたと言う。太平記26巻原文には「今の師直鎧不与は、上山命に代らんや。情けは人の為ならずとは、加様のことを申すべき」とある。師直から鎧をもらった際に武士の情けを感じた上山は、それに報いるために一命を捨てたのである。

そういえば、『四条畷』という唱歌を歌った記憶がある。その何番かが「目ざすかたきの師直と、思いて討ちしその首は、敵のはかれるいつわりか、欺かれしぞ口惜しき」であった。上山の最後を歌ったもので、戦中・戦前派

には懐かしい歌である。今思うと、随分と南朝目線の歌ではある。

私が生まれ育った鳥根県の小さな村では、正月が近づくと、村のあちこちから餅つきの音が聞こえてきた。新制中学に通っていた頃のそんなある日、全身血まみれの小母さんが我が家に担ぎ込まれた（祖父は村の開業医）。担ぎ込んだのはこの小母さんの長男の嫁さんであった。嫁さんの報告によると、嫁・姑の二人で餅をついていたところ、杵を振っていた自分が、誤って姑さんの頭をついてしまったのだと言う。祖父の肩越しに覗いてみると、傷の長さは約15cm、傷口は大きく開き頭蓋骨が露出していた。10針余りの縫合でようやく出血が止まった。その間、嫁さんはただおろおろするばかりであったが、小母さんの方は終始冷静で、麻酔なしでの処置であったにもかかわらず、「痛い」の一言もなかった。子供心にも、小母さんの我慢強さに感じ入ったものである。

後日譚である。村の口さがない連中が「あの嫁さん、わざと姑さんの頭をついたのと違うか」と噂し始めたのだ。この噂に激怒し「うちの嫁がそんなことをするはずがない、私がほんやりしていたために嫁につらい思いをさせた」と必死に嫁さんをかばったのは他ならぬ姑さんであった。私は高校卒業後すぐ村を離れたので、この噂のその後について知る機会はなかった。

30年ほどたって故郷の姉達に聞いてみると、かつての村のうわさは根も葉もないものであったらしい。当の嫁・姑は本当はすこぶる仲がよく、嫁さんは姑さんが亡くなるまで一生懸命世話をしていたし、姑さんは最後まで嫁さ



## ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思います。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
  - 「仁泉ひろば」のコーナー
  - 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
  - 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
  - 紹介したい店、場所、物など
  - 本誌に取り上げて欲しい話題
- 字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。

## ● 広告に関して

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

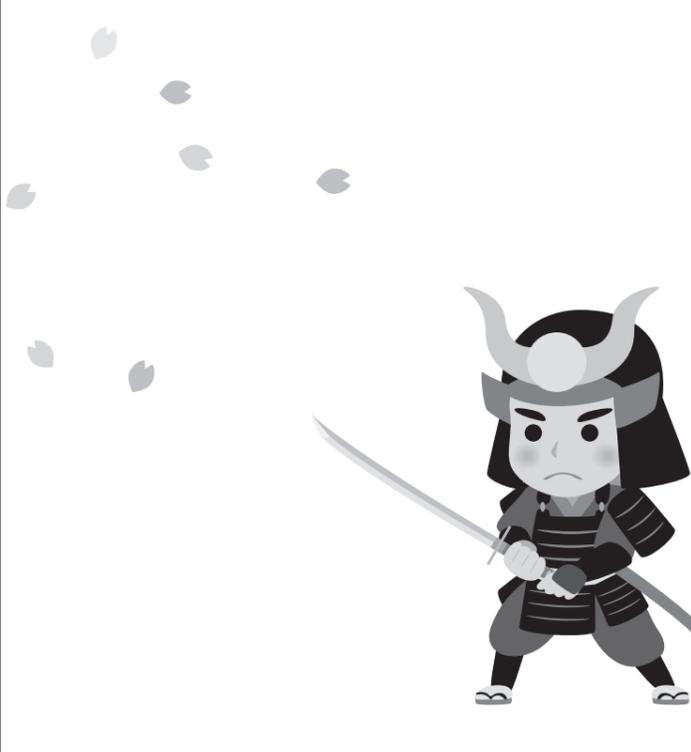
（内容により有料の場合があります）

事務局編集係

んへの感謝を口にしていたという。まさに「この姑にしてこの嫁あり」である。

母校を定年退職してから再就職した老健施設では、毎年12月末に餅つき大会があった。参加者は入所者、入所者の家族と施設の職員。その時の施設長の挨拶代わりにこの村での出来事を話したことがある。話の最後に「情けは人の為ならずです、いつか必ず自分のところに返ってきます。お嫁さんを大事にしないと息子さんやお孫さんに会えなくなりますよ」と言って挨拶を終えた。ところが、私の話にならずにいたのは長男の嫁さんと思しき少数の女性のみで、入所中の女性達はほとんど「反応なし」の状態であった。何のことはない。施設に入っているお姑さん達には、①嫁いびりの経験がある、②嫁いびりの機会はなかった（別居）、③嫁いびりの機会はあったがやらなかった（賢い姑）、あるいは④意思疎通が困難（施設の特性）など境遇の違いであろう。しかし、いずれにせよ、施設に入ってしまうはや嫁いびりとは関りのなくなった人達である。私の話に無関心であったのも蓋し当然のことであった。

考えてみると、同居している嫁・姑の折り合いが悪くなった場合でも、今日では、家族形態（核家族を含め）を変えることで同居を避けることができ、姑にはいざとなれば老健ほかの施設に入るという方法もある。「情けは人の為ならず」は嫁・姑が仲良く暮らす上での教訓とも見ていたのだが、その意味ではもはやあまり役に立たなくなった諺かもしれない。そもそも、ほぼ半数の人はこの諺の本来の意味を知らないという事情もある。



## 仁泉ひろば

jinsen-park

## でんでらりゅうば

文責／岡野 准 (学部 21 期)

「でんでらりゅうば でてくるばってん でんでられんけん でてこんけん こんこれんけん これられんけん こーんこん」という呪文のような歌詞は長崎の手遊び歌で、手遊びしながら歌う「せっせっせ」の様な童謡です。

歌の意味は「出られるならば出ていくけれど、出られないから出ていかないよ、行こうとしてもいけないから、行くことはできないから、行かない 行かない」と、いうのですが余計意味が分からないですね。「こん」は「来ん」ではなく「行く」という意味だそうです。歌の本当の意味については、いくつか説があるようで①ロシア艦隊封じ込め説：日清戦争でロシア艦隊を旅順に封じ込めたことを祝った歌という説。②隠れキリシタン説、③でんでら竜説、④丸山遊廓説：丸山遊廓の遊女が逃げるに逃げられない身を嘆いて歌ったものという説等が推察されています。①と④が有力そうですが確定はしていないそうです。

手遊びの歌としては前に挙げた「せっせっせ」や「アルプス一万尺」「茶摘みの歌」「ずいずいずっころばし」位かと思いましたが、保育園や幼稚園などで幼児と遊ぶ為に随分たくさん作られている様です。「でんでらりゅうば」「せっせっせ」等なんだか意味の分からない言葉ですが、一頃流行った「ラッスンゴレライ」は調子が良からと使われただけで全く意味は無いそうです。

そういえば宇治の先輩が時々「まるたけえべすに おしおいけ あねさんろっかく たこにしき しあやぶったかまつまん ごじょう せった ちゃらちゃら うおのたなるくじょう さんてつ とおりすぎ しじょう こえればはっくじょう じゅうじょうとうじで とどめさす」という呪文の様な歌を歌っていたのを思い出します。京都の方は皆知っているそうで京都市内の通りの名前を歌った手毬歌だそうです。歌詞を漢字を使って書くと「丸竹夷二押御池 姉三六角蜻錦 四綾仏高松万五条 雪駄ちゃらちゃら魚の棚 六条三哲通りすぎ 七条越えれば八九条 十条東寺でとどめさす」となり、これは東西に走る通り名を北から南へ並べると丸太町、竹屋町、夷川、二条、押小路、御池、姉小路、三条、六角、蜻薬師、

錦小路、四条、綾小路、仏光寺、高辻、松原、万寿寺、五条、(雪駄屋町)、鍵屋町、(銭屋町)、(魚棚)、六条、三哲、七条、八条、九条、十条、東寺(尚、雪駄屋町通は現在楊梅通、銭屋町通は現在の場通、魚の棚通は現在六条通。三哲は塩小路通です。)で、通り名の頭部分をつなげているのです。南北の通り名を東から西へ順に通りの名の頭の部分をつなげている「てらごこ」というのも有って「てらごこふやとみ やなぎさかい たかあいひがしに くるまやちよう からすりょうがえ むろころも しんまちかまんざ にしおがわ あぶらさめがい ほりかわのみず よしやいのくろ おおみやへ まつひぐらしに ちえこういん じょうふくせんぼん はてはにしじん」と寺町、御幸町、麩屋町、富小路、柳馬場、堺町、高倉、間之町、東洞院、車屋町、烏丸、両替町、室町、衣棚、新町、釜座、西洞院、小川、油小路、醒ヶ井、堀川、葎屋町、猪熊、黒門、大宮、松屋町、日暮、智恵光院、浄福寺、千本(西陣は通りの名ではない。)の名前の頭をつなげたものですが、手毬をつくの調子はどんなでしょう。

友思い ピースくゆらす 小正月



## 冊子切抜

## Sense of Wonder

井尻整形外科院長 井尻慎一郎



皆さま方の中には『星を継ぐもの』(創元SF文庫、原題“Inherit the Stars”)というSF小説を読まれた方がおられるかもしれない。イギリス人の作家、ジェームズ・P・ホーガンが1977年に著作し、1980年に日本でも翻訳が出版されたこのSFミステリー小説は、国内で104版という驚異的な版を重ねたとても有名な小説である。

あらすじは、1977年から約50年後の2028年の地球では、強力な核爆弾の開発によりすでに戦争する意味がなくなり、その技術力や資金を太陽系惑星開発に注ぐようになっていた、というもの(2024年の現時点では作者の予想とはまったく異なっているが)。

2028年のあるときに月面調査隊が、洞窟で深紅の宇宙服を着た身元不明の宇宙飛行士の死体を発見する。しかし精査の結果、死体は世界のいかなる人間でもなく、生物学的には現代人とほとんど同じにもかかわらず、5万年も前に死んでいたのだ。地球では原始時代の頃に、すでに優れた文明を持った「人間」が月で死んでいる。

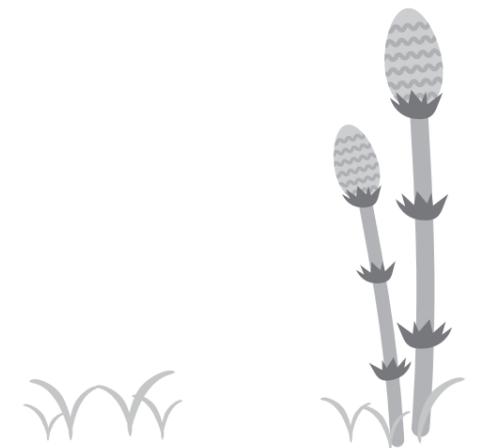
世界中のさまざまな分野の専門家が月で見つかった5万年前の人物の謎解きをしていく話であり、派手なアクションはまったくないが、科学者達が試行錯誤してその謎を解いていく過程は、時間を忘れるほどワクワク・ドキドキの連続である。

10年ほど前に長男の高校生時代の課題図書であったこの小説を読んで、まさに“Sense of Wonder (不思議な感動)”を覚え、2023年に新版化されてもう一度読んでみた。

進化論、医学、物理学、生物学、考古学などさまざまな知識が込められ、徐々に謎解きが進んで読む者を飽きさせない。月の起源、火星と木星間にある小惑星帯の謎、ネアンデルタール人とクロマニヨン人の謎に、SF的ではあるが、ある意味答えを出してくれているという満足感がある。最後のほうのオチはまさに感動的である。

新しい年の始まりに、このような感動と夢と納得を与えてくれるこの本を、まだ読んでおられなければぜひ一読をお勧めする。

2024年1月6日発行の週刊日本医事新報 NO.5202に井尻慎一郎先生(学31期)の記事が掲載されました。



# 冊子 切抜

雑誌月刊保団連の特集「医療マンガが面白い」で、田村功先生(学31期)が紹介されていましたのでご紹介させていただきます。

**ドクターたちの笑福マンガ劇場**

## 医局でマンガのコピーが出回り 某医学会の新聞に連載も

兵庫県保険医協会 医師 **ほん太**

本名、田村功。1956(昭和31)年、神戸市生まれ。1982(昭和57)年、大阪医科大学卒業。1992(平成4)年、神戸市長田区で田村整形外科を創業。1995(平成7)年、阪神・淡路大震災で全壊するも修復し、2004(平成16)年、区画整理事業で建て直し、現在に至る。

**ナンセンスの目覚め**  
大人になってからはマンガを読むことはほとんどありませんが、小学生の頃は手塚治虫の「鉄腕アトム」が連載されていた月刊誌「少年」や、赤塚不二夫の「おそ松くん」が連載されていた「週刊少年サンデー」をよく読みました。中学時代は、テレビ番組の「シャボン玉ホリデー」や「ゲバゲバ90分」のショートギャグに心を奪われ、学校の壁新聞などに破茶滅茶なナンセンス

スギャクマンガを描きまくりました。高校では文芸部に所属し、小説を書きました。「小説家か、放送作家か、マンガのネタ作家になりたい」などと、身の程知らずなことを言って、開業医の父親を困らせたこともありました。

**当直日誌にマンガ**  
医師になって3年目に、『コボちゃん』で有名な植田まさしの4コママンガから手法を勉強し、大学医局の当直日誌に描き始めると、先生方や看

護師さんに案外好評でコピーが出回りました。寛大な教授の計らいで、ある医学会の新聞に連載されたこともあります。「何々ハラスメント」という言葉もない時代だったこともあり、のびのびと表現することができたせいか、その頃に描いたマンガはおおらかで、また痛快でした。

**医療団体の会報に寄稿**  
その後、長いブランクを経て50歳を過ぎた頃、3番目の子どもも産まれて遊んでく

れなくなり、マンガを再開しました。  
2009(平成21)年に神戸市医師会報に4コママンガを投

稿したのがきっかけで、ありがたいことに現在は他に兵庫県医師会報・兵庫保険医新聞・母校の会報にも掲載してもらっています。  
現在、それらのマンガの総数は500台半ばくらいになりました。

**新医師臨床研修制度**  
麻酔科・ICU  
「麻酔科って面白いな」  
「ICUって面白いな」  
「麻酔科って面白いな」  
「ICUって面白いな」

**AED**  
「AEDって何？」  
「AEDって何？」  
「AEDって何？」  
「AEDって何？」

神戸市医師会報2013年2月号掲載  
神戸市医師会報2009年8月号掲載

月刊保団連 2024.1 No.1409

## メディア掲載・書籍発行の際は 編集部にお知らせください

テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636  
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

# まんが第66回

京都ほん太町(学31期)

2から5に

〇〇〇タイマー



## 開業しました!

### 前田和也先生

平成20年卒(学57期)  
在学中の所属部活/弓道部

#### 自己紹介をお願いします

仁泉会の先生方におかれましては、今回寄稿の機会を頂き誠にありがとうございます。学57期の前田和也と申します。2002年に入学し、学生時代には弓道部に所属しておりました。父(学27期:前田隆義)も産婦人科医であったこともあり、学生の頃から産婦人科には興味を持っていました。当時産婦人科医はなり手が少ないと言われており、同じ医師になるなら人手の少ない科のほうが活躍の機会が多そうと思ったこと、内科と外科の両方の性質があって面白そうだったことが産婦人科を目指すきっかけとなりました。

2008年に卒業後、日赤和歌山医療センターで2年間

の初期研修を修了し、母校産婦人科学教室に入局しました。2013年からは大学院に進学し、卵巣癌血清から抽出したエキソソームに含まれるマイクロRNAのバイオマーカーとしての有用性について研究を行い学位を取得致しました。2017年より産婦人科学教室の助教を拝命致しました。また関連の市中病院でも勤務し、市立ひらかた病院、大阪南医療センター、北摂総合病院で臨床経験を積ませて頂きました。北摂総合病院では産婦人科医長を拝命し、産婦人科の代表としての責任や他科との連携、近隣のクリニックとの病診連携などの重要性を学び、診療の幅が広がったと思っております。

#### クリニック承継のきっかけについて

承継のきっかけは、産婦人科の後輩で市立ひらかた病院の副部長であった田吹邦雄先生(学58期)からお誘いを頂いたことでした。当時北摂総合病院に勤務していましたが、ちょうど学位取得・専門医取得を終え、今後のキャリアについて考えている頃でした。もともと当院は妻の出産でお世話になっておりよく知っておりました。かねてから開業には関心があり、クリニックが自分の育った箕面にあることから、地元に戻ることができるという思いがあり、2022年9月より理事長:前田和也、院長:田吹邦雄の体制でクリニックを承継することとなりました。

#### クリニックの特色を教えてください

共立さわらぎ産婦人科は2002年、母校産婦人科学教室の先輩でもある先代理事長の清木康雄(学33期)、院長の鶴長建充(学34期)が共同で開院致しました。「さわらぎ」は母校、大阪医科大学の教養部であったさわらぎキャンパスに由来しています。折しも開院した2002年は私が大阪医大に入学した年であり、私がさわらぎキャンパスで学んだ最後の学年でもあり、当院との縁を感じます。ちょうど開院20周年を迎えた2022年に、先代よりクリニックを承継いたしました。

当院は箕面市東部の粟生外院にあります。箕面市をはじめ、茨木市、吹田市、豊中市、池田市など幅広い地域から、お産のため妊婦さんが訪れます。箕面は彩都や箕面森町などで住宅開発が進んでおり、少子化の進む大阪府のなかでも数少ない人口増加地域です。今年3月には北大阪急行電鉄が箕面萱野まで延伸し、当院が新駅より最も近い産科診療所となります。周辺はますます賑わうのではないかと期待しています。

当院では妊婦健診、分娩(自然分娩・無痛分娩・帝王切開)を始め、一般婦人科診療、婦人科がん検診、不妊治療(タイミング指導・排卵誘発・人工授精)、更年期症候群、子宮頸がんワクチンなど、産婦人科全般の診療を行っています。ハイリスク症例は大阪医大大病院、阪大病院をはじめ、箕面市立病院、豊中市立

病院、池田市立病院、国立循環器病センターなどと連携して診療を行っています。もともと当院で先代が築き上げてきた安全・安心なお産には定評があり、先代の高潔な人格に惹かれてスタッフが集まるようなクリニックでした。その理念を継承しつつ、より身近で親しみやすい地域の産院として、多くの妊婦さんに選んでいただけるよう努力していきたいと思っています。

#### 仁泉会会員の先生方に一言おねがいします

以上、簡単ではございますが、クリニックの紹介をさせて頂きました。まだまだ若輩者ではありますが、地域医療の発展のため努力を重ねて参ります。今後とも先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、このような寄稿の機会を与えて頂きました仁泉会の先生方、事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。



前列左から 田吹邦雄先生、鶴長建充先生、清木康雄先生、前田和也

#### 共立さわらぎ産婦人科のご紹介

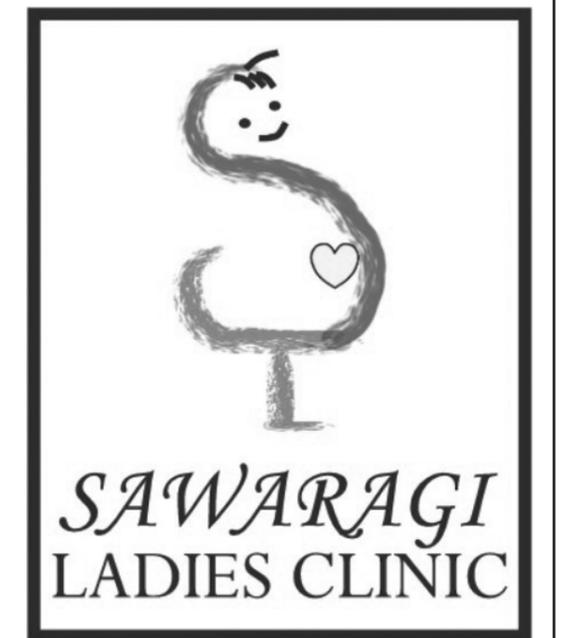
●所在地  
〒562-0025  
箕面市粟生外院6丁目3番5号

●電話  
072-726-1103

●診療科目  
産科・婦人科

●診療時間  
月～土 午前9:00～12:00  
月～金 午後17:00～19:00  
土 午後14:00～16:00  
休診日 日曜日・祝日

●ホームページ  
<https://sawaragi-hosp.jp/>



# 開業しました！

## 西原賢太郎先生（学47期）

名称 にしけん脳神経外科  
・くびこしクリニック

住所 〒593-0055  
大阪府高槻市西冠3丁目38-1

電話 072-676-0222

診療科目 脳神経外科・脊椎脊髄外科  
・リハビリテーション

診療時間 午前 9:00~13:00  
午後 15:00~19:30

休診日 土曜、日曜、祝日

その他 CT、MRI 完備

仁泉会の先生方に一言  
高槻にて開業させて頂きました。  
よろしくお願ひ申し上げます。

# 開業しました！

## 秦 健一郎先生（学52期）

名称 はなえみホームクリニック

住所 〒569-0007  
大阪府高槻市神内2-8-31  
ライプリー1号

電話 072-681-2277

FAX 072-681-2288

診療科目 訪問診療・内科

診療時間 外来  
月水木土 午前 9:00~11:30  
訪問  
火金 午前 9:00~11:30  
午後 13:30~17:00  
月木 午後 13:30~17:00

休診日 日曜、祝日、水曜・土曜午後

# 開業しました！

## 野原悠貴先生（学60期）

名称 医療法人楽樹会  
つむぎの森ホームクリニック

住所 〒569-0064  
大阪府高槻市庄所町2-9

電話 072-648-3360

FAX 072-648-3361

診療科目 一般内科、循環器内科、  
自由診療、在宅医療

診療時間 午前 9:00~12:30  
午後 16:00~19:30

休診日 日曜、祝日、木曜・土曜午後

ホームページ tsumugi-rakuju.org

E-mail tsumuginomorill1@gmail.com

仁泉会の先生方に一言

若輩者ではございますが、地域医療に貢献すべく尽力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後に、このような掲載の機会を与えていただきました仁泉会の先生方、事務局の皆さまに深謝申し上げます。



# 本部だより

## 良縁募集中

旧帝国大学医学部卒業、  
内科医師、32歳  
趣味：サイクリング、読書（歴史物など）、旅行  
身長178センチ、健康

お互いの仕事を理解し合える女性医師とのご縁を求めています。

詳細は仁泉会事務局までお尋ねください。

# 会員訃報

次の会員が亡くなりました。  
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

## 高医14期 足田善平先生

令和5年12月21日老衰の為ご逝去。(102歳)

昭和19年卒。

高知県挙の川診療所にて内科医としてご勤務になり、ながきにわたり地域医療に尽力されました。

ご遺族 鳥羽睦美様

## 高医20期 岸上 巖先生

令和5年9月5日老衰の為ご逝去。(97歳)

昭和26年卒。

昭和30年に尼崎市にて内科小児科をご開業になり、平成22年に閉院されるまでの55年間地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 妻 京子様

## 高医20期 志賀哲二先生

令和5年11月29日腎不全の為ご逝去。(96歳)

昭和26年卒。

昭和38年に綾部市にて志賀外科医院を開設され、地域医療に貢献されました。

ご遺族 子 俊樹様

## 学部1期 松田政博先生

令和4年10月14日心不全、新型コロナウイルス感染の為ご逝去。(96歳)

昭和27年卒。

卒業後、奈良医大産婦人科教室で助手をお務めになられた後、医療法人畿内会岡波総合病院産婦人科に勤務されました。平成元年以降は奈良県内子宮癌検診や結核予防会検診に従事され、85歳になられるまでのながきにわたり地域医療に尽力されました。

ご遺族 次男 尚史様

## 学部5期 西本 博先生

令和5年9月16日肺炎の為ご逝去。(94歳)

昭和31年卒。

西宮市にて内科をご開業になり地域医療に貢献されました。

## 学部5期 宮本昭士先生

令和5年12月31日老衰の為ご逝去。(95歳)

昭和31年卒。

昭和43年5月1日に香川県丸亀市にて耳鼻咽喉科医院を開業され、平成17年4月1日に閉院されるまで、ながきにわたり地域医療に貢献されました。丸亀市医師会理事、学校医もながきにわたりお務めになられました。

ご遺族 娘 安藤郁子様

## 学部7期 青山 宏先生

令和5年12月2日急性腹膜炎の為ご逝去。(92歳)

昭和33年卒。

## 足田善平さん死去

102歳 予防医学で地域に貢献

黒潮町などで長年、予防医学に基づいた地域医療に尽力した医師、足田善平（ひきた・よしひろ）さんが21日午後4時11分、老衰のため四十町内の病院で死去した。102歳。滋賀県彦根市出身。自宅は黒潮町拳ノ川72の1。告別式は25日午前10時から11時まで、四万十町神山町9の7のJA葬祭ルミエール四万十で仏式。喪主は妻鳥羽睦美（むつみ）さん。

旧国立京都病院で30年近く結核医療に従事した後、へき地で予防医学を実践し、

よつと1972年、旧佐賀町の国保拳ノ川診療所に赴任。住民の「終身カルテ作りや通夜の席での「健康教室」、患者の意思を尊重した医療の実現を目指す「満足死」の提唱といった特色ある活動を展開し、地域での保健衛生、自管理意識の浸透に努めた。

2007年に診療所を勇退した後、四万十町のくぼかわ病院で診療に当たり、90歳ごろまで現役で活躍した。今年6月、ろから体調を崩し、入院を繰り返していた。



昭和38年3月に京都大学医学部大学院を卒業されました。昭和38年4月～昭和41年3月国立大阪病院耳鼻咽喉科にて、昭和41年4月～昭和44年3月母校第一内科にてご勤務になられた後、同年7月に寝屋川市にて青山医院をご開業になりました。平成2年7月には医療法人青山医院を開設、平成21年6月まで理事長をお務めになられた後も理事として地域医療に尽力されました。また仁泉会評議員として会務運営にもご協力いただきました。

ご遺族 長女 さつき様

#### 学部7期 石川 允先生

令和5年12月31日ご逝去。(90歳)

昭和33年卒。

宇治市にて内科・小児科をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 長男 潤様

#### 学部7期 海老瀬尚文先生

令和5年12月28日老衰の為ご逝去。(93歳)

昭和33年卒。

京都府立医大第二外科学教室に入局された後、京都市上京区にて海老瀬医院（内科・外科）を継承され、平成29年までのながきにわたり、地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 次女 文代様

#### 学部8期 町塚 昭先生

令和5年12月2日誤嚥性による肺炎の為ご逝去。(90歳)

昭和34年卒。

昭和44年2月に京都市山科区にて町塚外科病院を開設され、(平成18年に高須町塚診療所に改名)地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 恵子様

#### 学部15期 尾上浩平先生

令和5年9月17日ご逝去。(87歳)

昭和41年卒。

尼崎市にて尾上医院（皮膚科・内科）をご開業になり、地域医療に尽力されました。

ご遺族 正浩様

#### 学部15期 槇殿洋子先生

令和4年4月25日癌性腹膜炎の為ご逝去。(80歳)

-30-

昭和41年卒。

広島市にて舟入槇殿胃腸内科をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 長女 加絵様

#### 学部17期 田村 滋先生

令和5年12月15日肺がんの為ご逝去。(79歳)

昭和43年卒。

京都市左京区にて内科をご開業になり、地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 三男 和様

#### 学部20期 貴島範彦先生

令和5年12月3日癌悪液質の為ご逝去。(78歳)

昭和46年卒

卒業後、第一内科に入局されました。昭和62年に貴島中央病院に入職され、平成3年に院長にご就任になりました。平成8年からは理事長も兼任され地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 絹子様

#### 学部25期 高沢 仁先生

令和5年12月11日肺炎の為ご逝去。(73歳)

昭和51年卒。

埼玉県熊谷市にて高沢内科クリニックを開設され、地域医療の為に尽くされました。

ご遺族 妻 薫子様

#### 学部30期 村田光遠先生

令和5年12月7日心不全の為ご逝去。(67歳)

昭和56年卒。

卒業後、堺教授医局（神経精神医学教室）に入局されました。宇治おうばく病院、城南病院、相生病院、志賀里病院にてご勤務になり、地域医療に尽力されました。

ご遺族 弟 守隆様

#### 学部36期 山田摩利子先生

令和5年11月25日悪性新生物の為ご逝去。(61歳)

昭和62年卒。

卒業後、神経精神医学教室に入局されました。平成12年からの阪南病院でのご勤務を経て、平成14年より山田医院にて非常勤として勤務され、地域医療に貢献されました。

ご遺族 夫 全寛様

## お詫びと訂正

仁泉会ニュース55巻1号にて下記の誤りがございました。

誌面をお借りして訂正とお詫びを申し上げます。

29頁 写真氏名注釈 下段左から4番目

誤 橋本

正 福本

## 会員名簿掲載事項確認のお願い

令和6年度事業として、2024年度版の会員名簿の作成準備を行っております。

本号（55巻2号）に名簿掲載事項確認書を同封させていただいております。

お手数をおかけいたしますが、名簿掲載事項の住所等にご変更がないかをご確認いただき、掲載の可否とあわせてご返信をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

住所等の相違がなく、非掲載事項のご希望がない場合は、ご返信は不要です。

名簿作成にあたり、住所や電話番号の確認を他社に委託は致しません。また、お電話で先生もしくはご家族、従業員様に登録事項の確認をすることはありません。

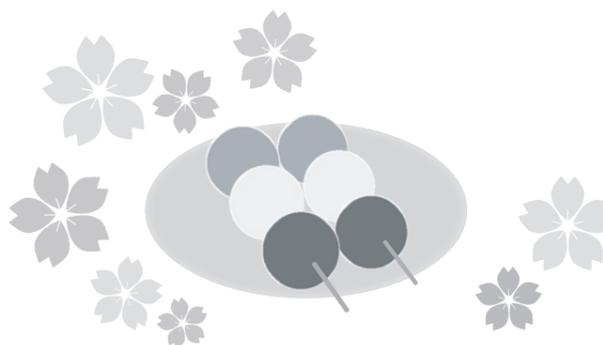
必ず返信先を仁泉会事務局（高槻市大学町2-7）にした上で、郵送にてお尋ねをしておりますのでご留意をいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

名簿編集係

## 編集後記

今年元日早々に能登半島地震が発生しました。亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、被災され今なお不自由な避難生活を送れている皆様にお見舞い申し上げます。

能登地区には調べた限りでは3名の同窓がおられるのですが、おひとは他県で勤務されており、ご実家が半壊の被害を受け、先生ご自身は2日に帰省される予定であったそうです。他のお二方は軽微な被害で済まれたようです。



数十年前に能登半島先端の「ランプの宿」を訪れたことがあるのですが、当時は本当に電気が通じておらず、客室や浴場にはランプが灯され、薄暗い中入浴したことが思い出されます。今でも営業されていますが、ホームページを見るとずいぶん立派な設備になっています。しかし、同所でもライフラインが途絶え現在休業を余儀なくされています。地域特性もあり復興まではかなりの時を費やさねばならないと思われませんが、再開が一日でも早いことを祈っています。

(治)

-31-